

首都圏を支える港



◎ 横須賀港の利便性

横須賀港は、海路と陸路での輸送時間の短さなど、大きな優位性を持っています。九州～首都圏を結ぶ長距離フェリーもこの特性を活かすとともに、速い航海速度で短いリードタイムを必要とするニーズに応えています。

◎ 横須賀港の特徴

横須賀港の強みは、都心からの距離が直線で40km程度と近いことです。首都圏の大消費地を控えるとともに、高速道路ネットワークを利用し、関東圏以遠からの貨物の集配荷も行われています。首都圏にあることから、特に短いリードタイムでの輸送が求められる消費者向けの貨物を受け入れるには最適な港となっています。

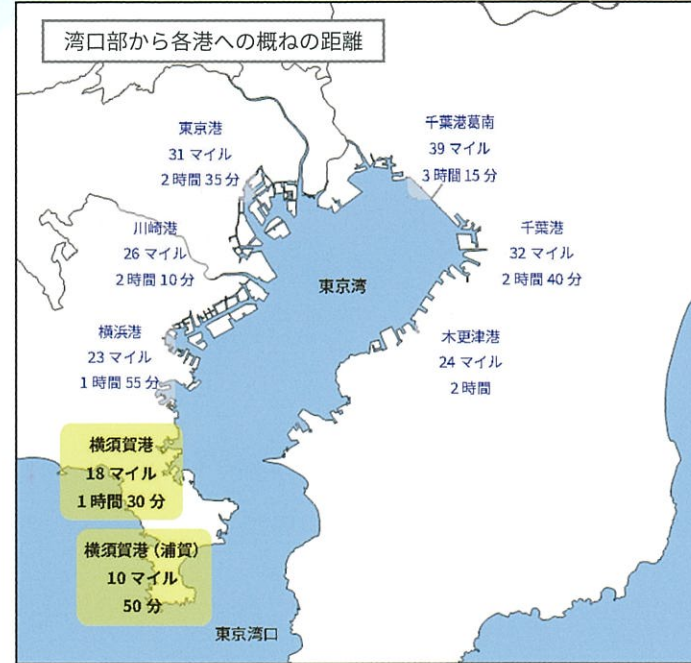
横須賀港はコンテナを取り扱うための港湾施設がないことから、利用する船舶は、フェリーやRORO船となります。

◎ 海上輸送

横須賀港は東京湾口部にあり、入口（剣崎）から横須賀港まで18マイル（約28.9km）、約1時間30分で、浦賀水道航路の速度制限（12ノット）影響を受けにくく、湾奥部に位置する他港への入港に比べ、リードタイムを大きく短縮できます。また入港待ちやゲート待機等がないことも大きなメリットです。

◎ 道路ネットワーク

現在事業中の横浜環状南線が釜利谷JCTで横浜横須賀道路とつながることで、圏央道とつながり、都心部を通らずに東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道、東北自動車道などとアクセスが可能となり、円滑な貨物輸送が可能になります。また、首都圏の湾岸部を通る国道357号も横須賀市北部の追浜地区への延伸を目指しています。2路線の供用開始により、大幅なアクセス向上が見込めます。



横須賀港（横須賀IC）からの主なアクセス

目的地	距離	所要時間
海老名（東名高速道路）	50km	40分
圏央道利用 八王子（中央自動車道）	86km	1時間5分
鶴ヶ島（関越自動車道）	118km	1時間30分
現在事業中の「横浜環状南線」の接続によりアクセスは飛躍的に向上します。		
宇都宮（東北自動車道経由）	188km	2時間30分
本牧ふ頭	42km	40分
空港中央（羽田空港）	48km	40分
豊洲	62km	50分

令和6年（2024年）港湾統計

- 令和6年（2024年）の横須賀港の港湾貨物取扱量は1,739万8千トンで、令和3年（2021年）7月の長距離フェリー就航や令和5年（2023年）の発電所の運転開始以降、移入量・移出量が増加しています。
- 主に取扱われる貨物は、フェリー扱貨物、完成自動車、石炭、自動車部品となっています。
- 内国貿易の構成比は98.2%で外国貿易1.8%を大きく上回っています。
- 取扱貨物の専用ふ頭、公共ふ頭別の集計は、専用ふ頭が全体の58.5%を占め、取扱貨物は石炭、完成自動車、自動車部品となっています。公共ふ頭は41.5%を占め、このうち8割以上がフェリー扱貨物となっています。

